

大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会(第21回)
仮置場設置訓練の開催報告

仮置場設置訓練の振り返り

● 訓練の目的

災害時に市町村職員等が仮置場設置、運営に係る対応が迅速に行えるようになることを目的として、道内の市町村及び一部事務組合（広域連合を含む）及び廃棄物処理関係機関（民間事業者等）の職員を対象として事前勉強会（オンライン）及び訓練（実地）を実施した。

● 事前学習の項目

1. 仮置場とは
2. 発災前の仮置場候補地の選定について
3. 仮置場設置の事前事後の環境調査や原状復帰方法
4. 仮置場の運用に当たっての留意事項
5. 仮置場設置訓練について

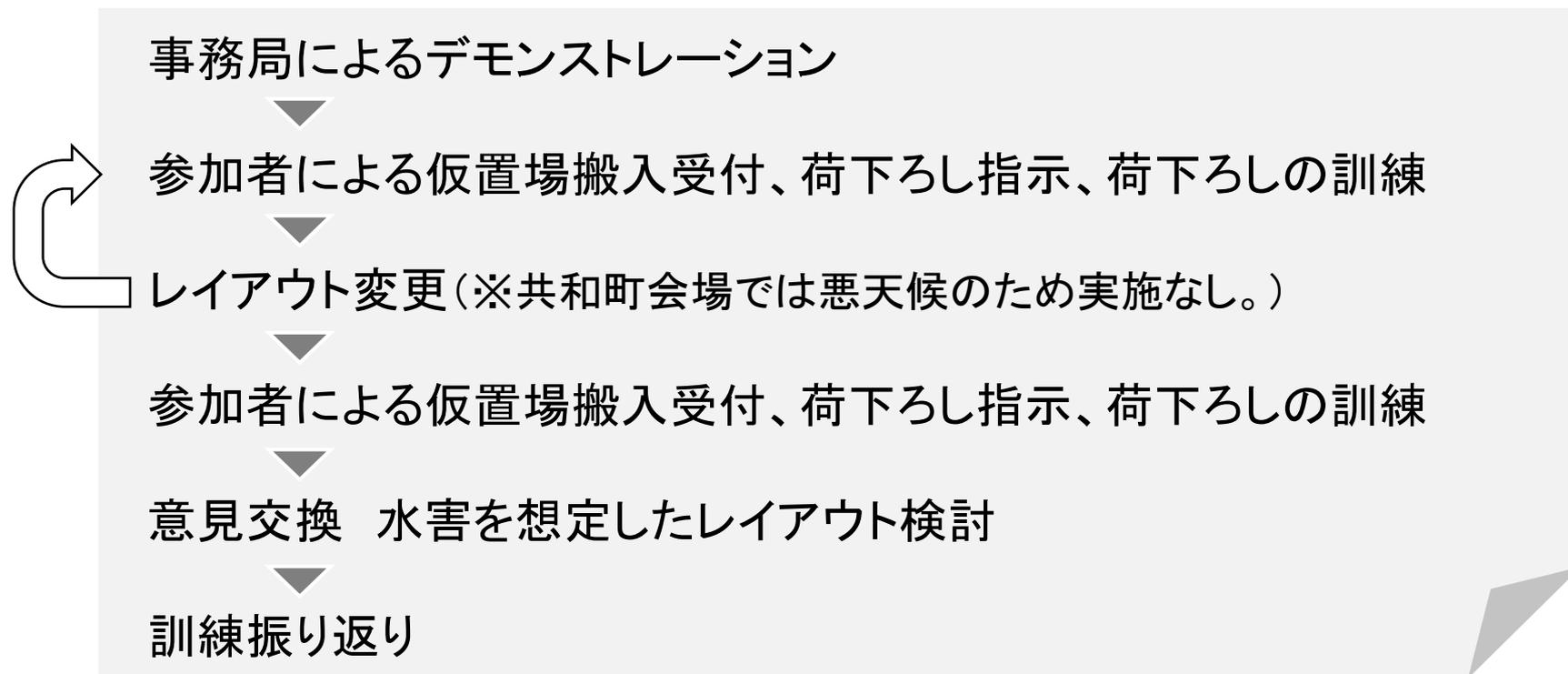
● 事前勉強会参加人数

開催回	自治体参加人数	民間事業者参加人数
第1回（10月21日）	39名	28名
第2回（10月27日）	13名	15名
第3回（11月 4日）	17名	2名

※訓練参加者は事前勉強会への参加を必須とし、事前勉強会のみ参加も可とした。

仮置場設置訓練の振り返り

● 訓練概要



● 訓練参加人数

訓練	自治体参加人数	民間参加人数
10月24日旭川市会場	9名	13名
10月30日美幌町会場	10名	15名
11月7日共和町会場	24名	2名

仮置場設置訓練の振り返り

搬入・受付



- 参加者が住民役として搬入、自治体役として受付を行った。
- 受付では罹災証明書または身分証の確認、搬入物の確認、荷下ろし場所の指示を行った。
- 罹災証明書を持参していない場合、受け入れできないものを搬入しようとした場合の想定訓練も実施した。

荷下ろし



- 住民役の参加者が指示通りの場所へ荷下ろしした。
- 順路逆走、間違った場所への荷下ろしを想定して自治体役の参加者が適切に誘導する訓練も実施した。

レイアウト検討・振り返り

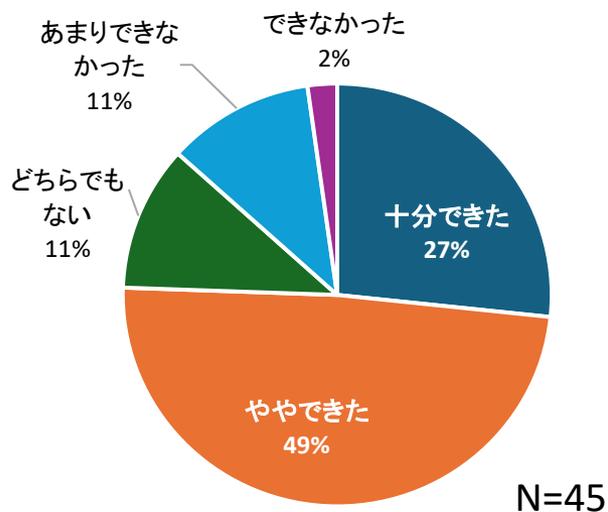
- 班ごとに水害時のレイアウト検討、訓練後に振り返りを行い、意見を共有した。



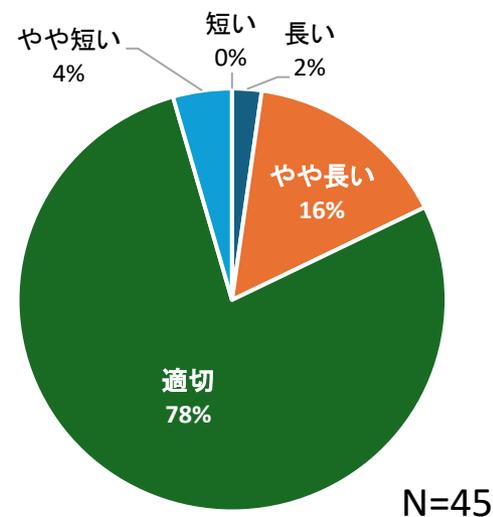
仮置場設置訓練の振り返り 一事後アンケート結果一

対象: 仮置場設置訓練参加者
回答: 45名

□ 事前勉強会を通じて、仮置場について具体的にイメージできましたか。

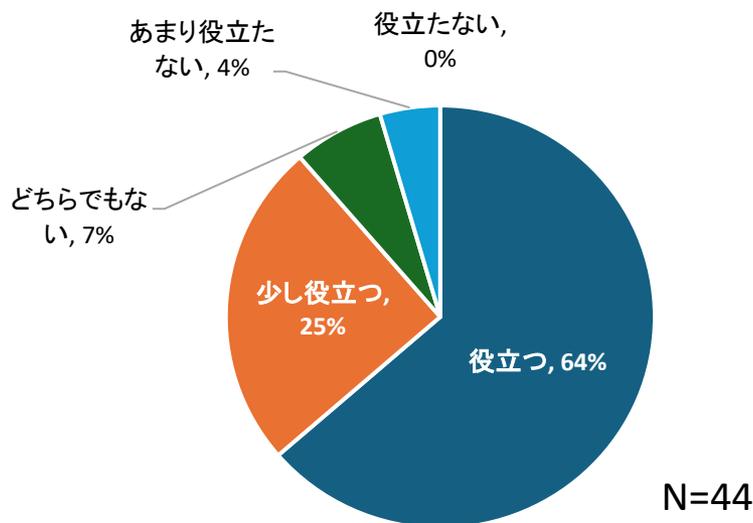


□ 事前勉強会の時間(2時間)は適切でしたか。

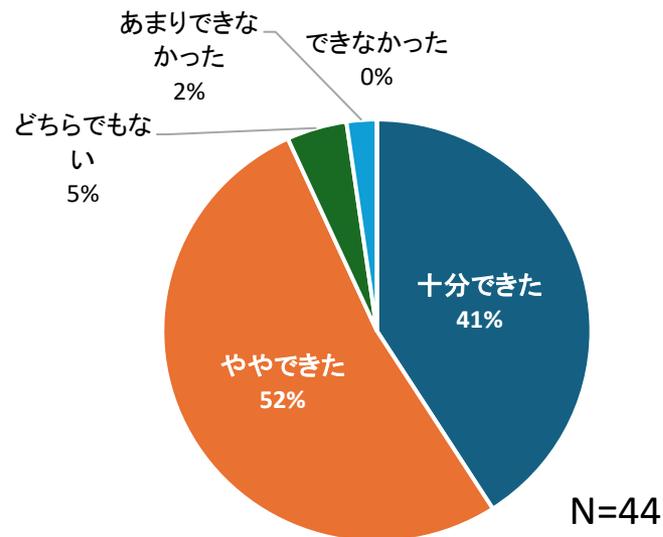


仮置場設置訓練の振り返り 一事後アンケート結果一

□ 事前勉強会の内容は、仮置場設置訓練での理解を深めるのに役立ちましたか。



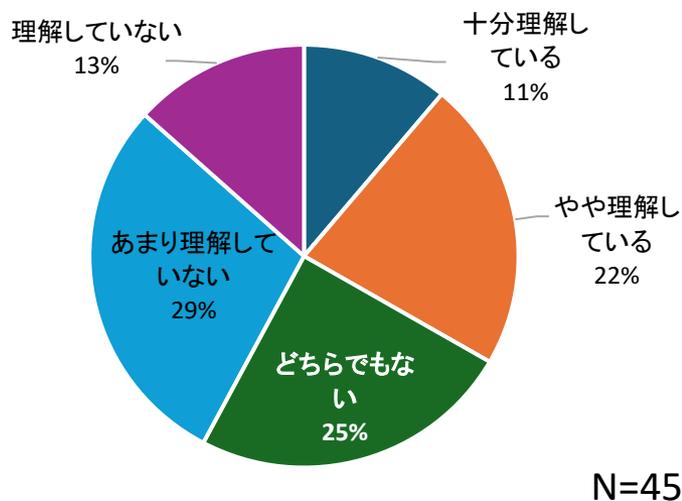
□ 訓練を通じて、仮置場の設置・運営の流れを理解できましたか。



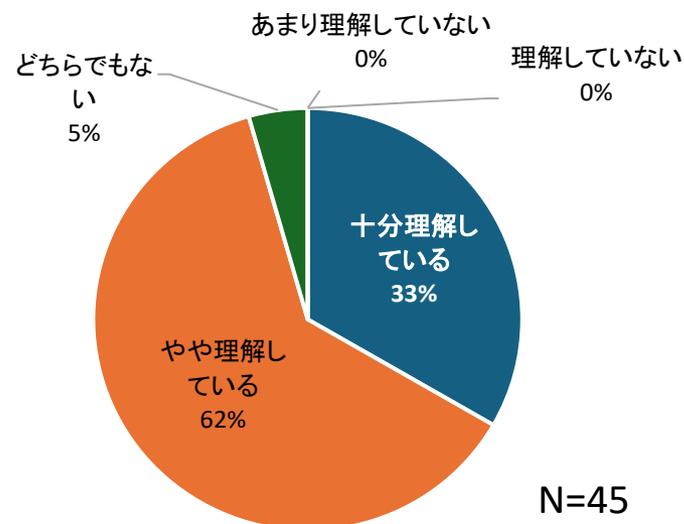
仮置場設置訓練の振り返り 一事後アンケート結果一

□ 訓練の前後で、仮置場設置・運営に関する理解度はどのように変化しましたか。

訓練前



訓練後



仮置場設置訓練の振り返り 一事後アンケート結果一

□ 事前勉強会について気づいたこと、学んだこと自由記述（一部抜粋）

仮置場選定・レイアウト	<ul style="list-style-type: none">• 仮置場がどのような場所に設置するのが適切なのかまた、事前の現地調査や搬出先等の準備の大切さを学んだ。• 仮置場候補地の選定やレイアウトの設定方法など、ツールを利用して作成する方法を知ることができた。• 大まかな仮置場での対応を確認することができ、災害廃棄物の受入れに災害規模や場所、状況により置き場のレイアウト等を考慮することで受入れ状況が大きく変わることを各市町村担当者とディスカッションを通して感じた。• 発災時、事前に選定した仮置場候補地から仮置場を速やかに選定していけるよう、平時から当市の候補地の現状確認、対応手順のさらなるイメージトレーニングが必要と感じた。• 仮置場の選定、見直しについて、天候等による路面状態等も考慮する必要があると感じた。
仮置場運営	<ul style="list-style-type: none">• 仮置場は交通渋滞が発生する事例があることや、仮設住宅など他の候補地と重なると優先度が低く、決定に調整を要すること、初動対応が遅れることによる勝手置場が問題となることなど、実務経験がないと気づけない課題について理解できた。• 仮置場をどう設置運営するかは、その後必要になる作業・対応時間にも影響するということ。• 災害によって発生した廃棄物の処理等について通常の廃棄物処理との違いや困難さ、及び関係法令について大変分かりやすく理解が出来たこと。
住民理解	<ul style="list-style-type: none">• 勝手仮置場や便乗ごみ発生防止対策も重要であること、そのため住民周知をしっかりと行うことで、仮置場の設置準備や運営に注力できると改めて感じた。

仮置場設置訓練の振り返り 一事後アンケート結果一

□ 訓練で気づいたこと、学んだこと自由記述(一部抜粋)

受付について	<ul style="list-style-type: none">• 通常の廃棄物とは異なり危険な廃棄物について適切な処理が必要なこと。住民が持ち込む廃棄物の内容確認が重要であるが現場では説明することが難しいこと学んだ。• 住民対応について、住民は精神的に疲弊していると思うので、訓練のようにうまくはいかないと感じた。• 仮置場受付窓口での受付の煩雑さ(罹災証明書・町民表示、廃棄物の内容確認)があるとともに、場合によっては、一切受け付けられないこともありUターンさせることもあり得るが、実際にそんなことができるのかどうか心配になった。• 仮置場受け入れの際、自治体ごとで異なる場合もある廃棄物区分の知識を仮置場に配置される職員全員が共有しておくことが重要と感じた。• 仮置場受付には多くの被災者が集中して搬入し渋滞が発生することも考えられるが、誘導する職員が明瞭に指示することが迅速な対応には欠かせないものと感じた。
場内環境、職員・支援者への配慮	<ul style="list-style-type: none">• むかるみなどに対応するための敷き鉄板の重要性、職員の防寒対策、トイレや休憩場所、食事をとる場所の必要性など気づきがあった。• 仮置場でスムーズに受付することの難しさや、補助金や仮置場の復旧のことを考慮しながら運営することについて理解できた。• 配置のあり方や地面状況による影響もできるだけ事前に想定しておくべきだとわかりました。
人員配置	<ul style="list-style-type: none">• 実際には2～3人程度しか配置できず、人員配置が難しい。
事前準備・連携	<ul style="list-style-type: none">• 発災前の事前準備(仮置場所の確保、分別方法、人員の確保等)の重要性を改めて認識できました。• 民間事業者の参加者とも、情報交換、意見交換ができ貴重な機会となったほか、引き続き発災時の協力依頼を想定した事業者との意見交換や対応のすり合わせも必要と感じた。• 災害廃棄物の計画の必要性を再認識した。

仮置場設置訓練の振り返り 一事後アンケート結果一

□ 訓練プログラムについてよかったこと、改善点、要望(一部抜粋)

よかったこと	<ul style="list-style-type: none">• デモンストレーションや訓練を通して、仮置場設置のイメージができた。• 被災した住民から想定される質問にたいするやりとり、仮置場運営者側の動きを実体験でき、発災時の対応がより具体的にイメージできた。• 実際に設置された仮置場を見学することや、訓練を行うことで仮置場の設置運営について苦労する点や問題となる点を理解することができたが、実際に当市で選定している仮置場候補地との広さの違いを考えると全く別物になると思い、事前の検討が重要であることを再確認した。• 他自治体の事例などから、運営における注意事項などをわかりやすくご説明していただいて、理解につながりました。
改善点・要望	<ul style="list-style-type: none">• 実地訓練において、自治体役を全の班に体験させるのはもちろんいいことではあると思うが、全体のやり取りを共有さえすれば、2、3周行えればそれで十分研修効果はあると思う。また室内でじっくりと考える時間をとってほしいかと思った。• 災害廃棄物の処理・処分が国に認められるかどうかが当該市町村にとって重要である。その点がもう少し仮置場設置訓練でダメな事例の紹介等詳しく知りたかった。• 仮置場内で起きたトラブル対応等も教えて頂けるとありがたかった。• ドローンでの災害廃棄物量の計測について、デモか訓練に入れた方が良いのでは。